令和７年度　施設自己評価　総評

葛ケ丘保育園

保育理念「あかるく、やさしく、なかよく」　重点目標「いいな、やってみたいな！」

本園は、保育理念「あかるく、やさしく、なかよく」と重点目標「いいな、やってみたいな！」を大切にし、子ども一人ひとりの気持ちや発達、興味に応じた保育に取り組んできた。職員の回答では、子どもの遊びの姿から素材や環境を整え、必要な物を手作りするなど、主体的な活動を支える工夫が挙げられた。年上の子の姿を取り入れた活動や、少人数のよさを生かした丁寧な関わりも報告されている。

園内外の研修については、参加の機会が学びにつながったとの声が複数あり、園目標に沿った保育計画の話し合いにより見通しをもてたとの意見もあった。連絡帳・出欠連絡・書類作成のICT化は、手書きの負担軽減や業務の効率化につながったと受け止められている。また、地域コーディネーターを通じた交流の広がりが、園を知ってもらう機会になったと評価されている。

一方、職員配置の変更による負担、職員同士の話し合いの時間不足、担当業務や経営面の仕事内容の共有不足が課題として挙げられた。役割分担を評価する意見もあるため、その成果を生かしながら、担当者・業務内容・引継ぎ方法を全職員で確認し、継続性のある保育と協働体制を整える必要がある。

行事は、主体的な参加や計画の分かりやすさを評価する声がある一方、年長児の行事数、準備期間、実施時期への懸念も示された。子どもと職員の負担を確かめ、日々の遊びを十分に保障できる計画へ見直したい。研修は年間計画と学びの共有を充実させ、誰もが意見を出しやすい対話の場を設ける。ICTの利用機会の違いや月末の書類負担にも配慮し、操作支援と書類の簡素化を進める。

保健対策、保護者向けの学習機会、保育理念の周知、地域・小学校等との情報共有は、選択式回答も踏まえて実施状況と職員の理解を確認する必要がある。乳児の地域交流、行事後の片付け、２階遊戯室裏側の整理、トイレへの移動のしにくさなどの意見も具体的な改善検討につなげる。

今後は、子どもの姿を起点とした保育を継続し、職員の対話と役割共有、保健対策と家庭への働きかけ、行事・研修・業務の見直しを重点として取り組む。保護者や地域の声を聞き、改善の実施状況を定期的に振り返ることで、子どもが安心して「やってみたい」を実現できる環境と、信頼される園づくりを進めていく。